花巻市博物館だより

HANAMAKI CITY MUSEUM

No.70

2023.8

花巻市博物館HP

Facebook

Instagram開設!

目次

▶Ｐ１特別展「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家　かがくいひろしの世界展」▶Ｐ２－３テーマ展「刀剣コレクション展」▶Ｐ４－５特別展「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家　かがくいひろしの世界展」▶Ｐ６活動レポート▶Ｐ７館長コラム・インフォメーション▶Ｐ８花博コレクション

累計発行部数900万部を超え、子ども達に広く愛される絵本「だるまさん」シリーズ。作者のかがくいひろし（1955－2009）は50歳で作家デビューし、病で急逝するまでのわずか４年間の活動の中で、同シリーズの３作を含む16作品を次々と生み出しました。

かがくいの絵本を読み聞く子どもたちは、体を揺らし、口ずさみ、ケタケタと笑い転げます。たとえ身体が思うように動かなくても、言葉をもたなくても、きっとつながりあえる。笑いあえる。作家が半生をかけて特別支援教育の現場で積み上げた実感、想い、願い――そのすべてを注ぎ込まれた絵本だからこそ、かがくい絵本は時を超えてこんなにも多くの人の心をとらえ、笑わせ続けるパワーを持ち得ているのでしょう。

花巻市博物館では、令和５年９月30日(土)から12月24日(日)の期間で、特別展「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展」を開催します。本展が多くの子どもたちの笑顔で溢れる場となりましたら幸いです。

令和５年度テーマ展

「花巻市博物館所蔵 刀剣コレクション展」

会期：令和５年７月22日(土)から９月18日(月・祝)

花巻市博物館では平成16年に開館して以来、多くの刀剣・刀装具を収集してきました。刀剣の数は現在約130点にのぼりますが、その多くは盛岡藩お抱えの刀匠の家として江戸時代をとおして作刀に従事した新藤(しんどう)家や、幕末に盛岡藩の武庫に収める刀を鍛錬したことで知られる宮川秀一(ひでかず)などの優秀な刀匠によって作られた“郷土刀”と呼ばれる刀たちです。

本展では、当館が所蔵するコレクションの中から厳選して約50点の刀剣、刀装具を展示します。また、令和の時代になってから当館のコレクションに加わった刀剣の一部も本展で初お披露目いたします。

第１章 南部家伝来の刀たち

現在の花巻市の市域は、江戸時代には盛岡南部家が治める盛岡藩の一部でした。

初代 南部信直(のぶなお)(1546－1599)から16代利恭(としゆき)(1855－1903)までの約270年にわたって盛岡藩を統治した盛岡南部家には、多くの刀剣・刀装が伝わっています。

この章では、盛岡南部家伝来品と伝わる刀剣と拵を紹介します。

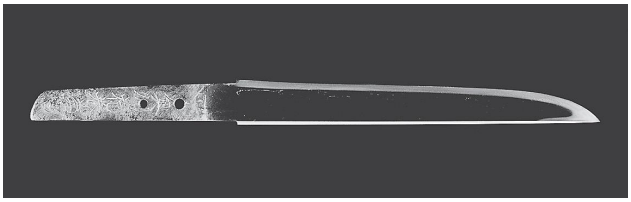
左：鷹頭御陳太刀拵
右：鳳凰御陳太刀拵

太刀　無銘（大和千手院）

刀　銘　平鎮教

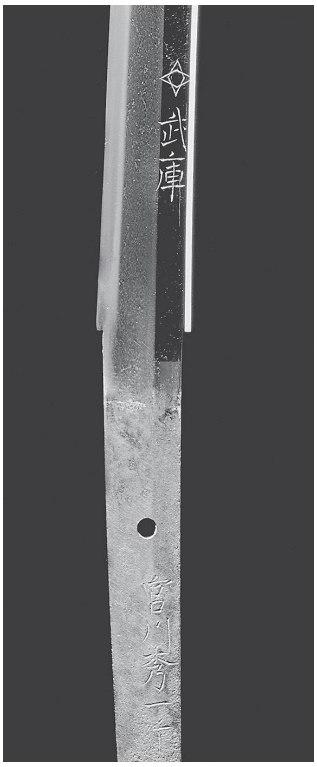
第２章 花博の刀たち

江戸時代の天和(てんわ)年間(1681－1683)、盛岡藩主南部重信の招きに応じた新藤国義が盛岡下小路(したこうじ)へ移



短刀　銘　奥州花巻兼吉

住し鍛刀を開始すると、以降の南部家では複数の刀匠が召し抱えられてきました。幕末には、新藤国義家の７代義広と８代義国、新藤信国家の６代元右衛門（刀匠名不明）、二子通轟村（現花巻市笹間）出身の宮川秀一、在藩せず江戸で作刀に従事した岩野道俊などの刀匠が藩お抱えの打物鍛冶として作刀をしています。彼らが作った刀は「郷土刀」と呼ばれますが、花巻市博物館が収蔵する刀の多くはこの郷土刀です。この章では、郷土刀を中心とした花巻市博物館所蔵の刀をご覧いただきます。



刀　銘　宮川秀一作（武庫刀）

刀　銘　以餅鉄盛岡住宮川秀一作之
文久二年五月日

第３章　刀装具の美

刀身を携帯して使用しやすくするための外装のことを刀装といい、そこに用いられた金具類は総称して刀装具と呼ばれます。刀装は、元々は刀剣が傷つかないように守るための実用的な道具ですが、時代を下るとともに徐々に美しく華やかに飾られていくようになります。江戸時代には意匠を凝らした豪華な刀装具がたくさん作られるようになりました。

瑪瑙孔雀石象嵌脇指拵

雲龍図鐔　銘　岩手郡住就栄作
（花巻市指定有形文化財）

蜘蛛図縁　銘　君万歳　就寿

第４章　新収蔵刀剣

花巻市博物館の刀剣コレクションは郷土ゆかりの刀匠の手によるものだけではなく、日本各地の刀匠の刀も収蔵しています。元号が令和に変わってから新たにコレクションに加わった刀剣の一部をこの章で初めて公開します。

（学芸員　小田島智恵）

◆関連イベント

◆ギャラリートーク
日時：８月５日(土)13時30分～14時
場所：花巻市博物館　企画展示室

◆刀剣研磨実演とスペシャルギャラリートーク
日時：８月20日(日)13時30分～15時
場所：[研ぎ]
花巻市博物館　エントランスホール
[ギャラリートーク]
花巻市博物館　企画展示室
講師：菊池真修氏（御刀剣研師）

◆ペーパーナイフ作り
日時：９月３日(日)13時30分～16時
場所：花巻市博物館
講師：辻和宏氏（刀匠）
費用：200円
定員：12名（小学５年生以上対象）
その他：お申込みは８月３日(木)より受け付けます。

令和５年度花巻市博物館特別展

日本中の子どもたちを笑顔にした 絵本作家

かがくいひろしの世界展

令和５年９月30日㊏ ― 12月24日㊐

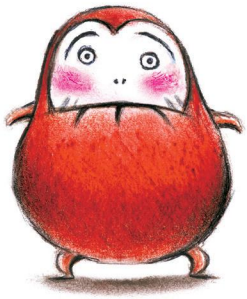
はじめに

生涯にわたって創作への情熱を絶やすことなく、子どもたちを笑顔にする作品を作り続けた絵本作家・かがくいひろし。没後初の大回顧展となる本展では、絵本原画や制作資料とともに、教員時代の貴重な映像記録や教材などから、かがくいが遺した足跡を辿り、今この瞬間にも子ども達を笑顔にし続けているかがくい絵本の魅力に迫ります。

❶ 笑いのまんなかに

「だ・る・ま・さ・ん・が」のリズムに合わせて、愛嬌たっぷりのだるまさんが転んだり、縮んだり。変幻自在に姿を変えるだるまさんは、「泣く子も笑う」と大きな反響を呼びました。

かがくいひろしは、特別支援学校の教員として、子どもたちと接しながら、「相手の反応を引きだす」ことに、力を注いできました。そこで培ったヒントがたっぷりと盛り込まれた「だるまさん」シリーズは、子どもの笑いのツボにまっすぐ届き、魔法のように、笑い声を引き出しました。



©Hiroshi Kagakui
『だるまさんが』
2008年/Bronze Publishing Inc.

展示では「だるまさん」シリーズの原画とともに、初期ラフやかがくいが密かに温めていた続編構想の数々を展示。また、会場限定で、絵本のキャラクターたちが登場するアニメーション映像「だるまさんとあ・そ・ぼ」も上映します。

❷ 人を楽しませることが好きな少年

かがくいは昭和30（1955）年、東京都新宿区戸塚町に４番目の末っ子として生まれました。

父親が勤務していた建設会社を遊び場にして、工作を楽しむ一方、知的障がいのある姉を４歳で亡くし、母の悲しみを間近に見て育ちました。

のちに美術の道を志し、障がい児教育に携わるようになるかがくいにとって「ものづくりの原風景」と「姉の早逝」は、重要な意味をもつ出来事となっていきます。

❸ 特別支援学校のかがくい先生

昭和56（1981）年、かがくいは千葉県立松戸つくし養護学校に着任し、28年間にわたる教員生活がはじまります。当時はまさに障がい児教育の黎明期。情熱あふれる教員たちが手探りで現場を作り上げる、その一員がかがくいでした。

障がいのある子どもたちと接する中で、かがくいは「相手の反応を引き出すものは何か」を考え続けます。教員として、思考と実践を重ねるなかで、その後の絵本制作へとつながる大切なヒントが蓄積されていきました。

©Hiroshi Kagakui
パスタ絵本　松戸養護学校時代

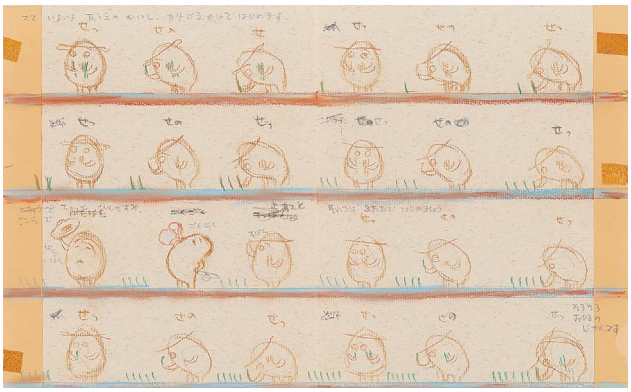
肢体不自由の子ども達とつくった教材。手や口で乾麺をパキポキ折る感覚を楽しんだ後、それをかがくいが紙芝居仕立ての作品に仕上げました。

❹ 絵本の仲間たち

かがくいには、言葉やリズムに明確なイメージがあり、アイデアを何度も精査して、いちばん伝わりやすい表現を選びました。絵と動きの連動にも徹底的にこだわり、それは自然と読み手の声の抑揚や節回しを引き出し、それによって子どもた

ちが笑い声をあげる。かがくいの絵本は、だれが読んでも上手に読めるものばかりです。

本章では、第27回講談社絵本新人賞受賞作『おもちのきもち』（2005年、講談社）ほか、おむすびさんやおいなりさんが田植えをする様子がユーモラスな『おむすびさんちのたうえのひ』（2007年、ＰＨＰ研究所）など人気作品の原画や、ラフ画などを紹介します。



©Hiroshi Kagakui

『おむすびさんちのたうえのひ』ラフ
「せっせのせ」と軽快なリズムが子どもたちの笑いを引き出します。最終的に、手伝いに来た様々なキャラクターが勢揃いするシーンになりました。

❺ ちいさな生活の一間から

かがくいの絵本に登場するキャラクターは、身近な生活用具や食べ物ばかり。そんなキャラクターたちが生まれた場所は、団地の一室、家族が集う居間の片隅でした。部屋の隅の１畳ほどのスペースがかがくいの定位置で、夕食後に晩酌をしながら、作品を作りました。

かがくいにとって創作は、日常生活の一部であり、家族との会話を育む温もりの通った営みでした。娘のスケッチや記念日に贈ったカード、母の米寿祝に作った紙芝居など、家族のための作品を通して「目の前にいる人を喜ばせたい」というかがくいの作家性にアプローチします。

❻ 自分の表現を探して

50歳で絵本作家デビューするまでのおよそ13年間は、かがくいは自分の表現を模索した時期でした。

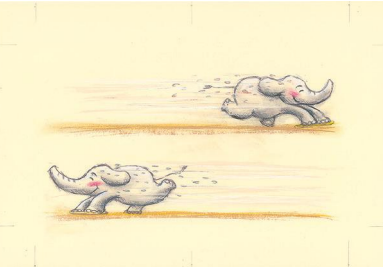
「自分の表現を追求したい」という気持ちと「自分の作るもので人を楽しませたい」という気持ちのはざまで揺れながら、制作を行い、個展も意欲的に開催しました。奇妙な生物のデッサン、突拍子もない構想など、シュールな世界観を色濃く見せる81冊のアイデアノートからは、作家の類まれな表現意欲と、葛藤の軌跡がうかがえます。

❼ 物語はつづく

54歳で教員の仕事を早期退職し、絵本作家の活動に専念しようとしていたかがくいは、そのわずか６か月後、すい臓がんでこの世を去ります。

子どもたちの笑顔を引き出し続け、16冊の絵本と、未完の絵本を数多く遺して、かがくいはその生涯を終えました。

描き、作り、子どもたちの笑顔を引き出し続けた作家、かがくいひろし。本章では、遺された数々の未完ラフ資料を展示します。



未完「ぞうきんがけとぞうさんがけ」習作（2009年）

©Hiroshi Kagakui

未完『ぞうきんがけとぞうさんがけ』より。「刊行はまだ少し先」としながらも、すでに６枚の原画を仕上げていました。

◆関連イベント

・記念講演会

講　師：水島尚喜氏（聖心女子大学教授）
日　時：令和５年10月８日（日）
　　13時30分～15時
定　員：40名（※要電話申込）

・Specialギャラリートーク

講　師：沖本敦子氏
（元ブロンズ新社かがくいひろし担当編集者）
日　時：令和５年11月３日（金・祝）
　　13時30分～15時

・子どもたちの絵画作品展

参　加：岩手県立清風支援学校小学部と市内小学校の支援学級に在籍する児童、矢沢地区幼児保育施設の園児。
テーマ：「わたしのすきなもの」

そのほか、絵本の読み聞かせ会なども計画。詳細は、花巻市博物館ホームページをご確認ください。

活動レポート

楽しく活動！ GW体験講座

花巻市博物館では、５月３日㈬から５月５日㈮の３日間、３種類のワークショップ体験活動を行いました。その様子を簡単に紹介します。

① 勾玉つくり体験

日　時：５月３日㈬　13：30～15：00
参加者：29名（体験21名、付添８名）

最初に講座・体験学習室で「勾玉とは何か」についての説明を聞き、その後、展示室で実物の勾玉を見学。

部屋に戻って作り方の説明を聞いたら、いよいよ勾玉作りのスタートです。大人も子どもも最後まで集中して削ったり磨いたりして、世界に一つだけの自分の勾玉を、楽しく作成していました。

作り方の説明

集中して削っています

② 鍛冶丁焼つくり体験

日　時：５月４日㈭　13：30～15：00
参加者：９名（大人７名、児童２名）

講座・体験学習室で講師（鍛冶丁焼窯元・阿部太成氏）の紹介をしたあと、講師から作り方を教えてもらって早速作業開始。思い思いの作品を終始楽しそうに作成していて、充実した時間になったようです。講師のアドバイスも的確で、参加者は安心して作業できました。

およそ２か月後の作品の出来上がりが待ち遠しい様子でした。

講師からの説明

土をこねて形を作ります

③ 縄文弓矢・火起こし体験

日　時：５月５日㈮　13：30～15：00
参加者：38名（体験21名、付添17名）

最初に参加者を２つに分け、展示を先に見て火起こしに進むグループと、説明を聞いてから展示を見て弓矢に進むグループにして、活動が重ならないようにしました。

展示室で弓矢の進化などの話を聞いてから外に出て、体験が開始しました。

縄文弓矢体験は、小さなお子さんには難しかったようです。それでも何度もチャレンジして、少しずつ上手になっていました。

縄文弓矢の説明

まとをねらって矢を射るところ

この日は暑くて、ともすれば集中力がなくなりそうな日だったのですが、全員がルールをしっかり守って、安全に楽しく矢を射て、的に当てる活動ができました。

火のおこし方の説明

協力して火おこし中

火起こしは、「舞いきり」という火を起こすための道具を動かして種火を作り、それを燃えやすい材料のものにつけるところまでの作業になります。

舞いきりの扱い方は大人でも難しいのですが、お子さんががんばっただけでなく、お父さんお母さんのがんばりもたくさん見られた活動になりました。

館長コラム　力士・錦木関のこと

今、岩手の相撲ファンは、盛岡出身の錦木関の成績に一喜一憂していることと思う。実は「錦木」という四股名（しこな）は、江戸時代から続く名跡であり、代々盛岡藩お抱えの江戸相撲力士が名乗っていた。

錦木の名は、現在の秋田県鹿角市錦木にある「錦木塚」の伝説に由来する。平安時代の歌人・能因法師の歌「錦木は立てながらこそ朽にけれ　けふの細布むねあはじとや」の歌枕となっているほか、室町時代には世阿弥（ぜあみ）の謡曲「錦木」によって世に広まった。江戸時代の鹿角市周辺は盛岡藩に属しており、この全国的に有名な伝説を盛岡藩お抱え力士の四股名としたのである。

錦木を名乗った力士は、江戸時代から現在まで７人いる。そのうち、３代目と６代目の錦木繁之助は、盛岡藩以外の出身であり、盛岡藩お抱え力士としてスカウトされた者なので今回は省略する。

初代の錦木塚右エ門は、和賀郡黒岩村（現北上市黒沢尻町）出身で、天明から文化年間にかけて活躍した。当時の最高位である大関まで昇進し、現役で年寄・初代二所ノ関軍右エ門を名乗った（二枚鑑札）。墓は北上市黒岩の正洞寺にあり、弟子たちによる顕彰碑が花巻城本丸跡に建つ。

２代目錦木塚五郎は、稗貫郡大迫村（現花巻市大迫町）に生まれ、巨漢力士として文化年間に活躍し、小結まで昇進。幕内では大関柏戸宗五郎を破るなど数々の番狂わせを演じたが、巡業中の取組で若手力士を死亡させてしまい引退。墓は大迫町の到岸寺にある。４代目も錦木塚五郎といい、稗貫郡四日町（現花巻市四日町）に生まれ、天保年間に活躍した。無類の強さを誇っていたが、現役のまま不慮の死を遂げている。最高位は小結。墓は四日町の順覚寺にある。

５代目錦木塚右エ門は、和賀郡出身（現北上市）。安政～文久年間に活躍し、前頭筆頭まで昇進している。

そして、６代目錦木繁之助（香川県出身）から141年ぶりに錦木を名乗り、現在大相撲で活躍しているのが錦木徹也である。熊谷という本名を四股名としていたが、同郷の歴史ある四股名にあやかって、幕下の2012年夏場所から錦木を名乗った。錦木となってからは幕下優勝、十両優勝などを飾っている。

三役を狙える位置に上がってきた錦木関、これからも先人に倣い大いに活躍して欲しいものである。

令和５年８月～11月の行事予定

【企画展示室】

●テーマ展
「花巻市博物館所蔵刀剣コレクション展」
会　期：～９月18日（月・祝）〈会期中無休〉

●特別展
「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家かがくいひろしの世界展」
会　期：９月30日（土）～12月24日（日）
〈会期中無休〉

※テーマ展、特別展ともに関連事業については特集ページをご覧ください。

【ワークショップ】

◆勾玉つくり体験
日時：８月５日（土）　13:30～15:00
定員：20名　※要申込
費用：340円
会場：花巻市博物館 講座・体験学習室
※８月４日（金）まで受け付けます。

【講　座】

◆館長講座－２
「『盛岡藩産物番附』にみる花巻のモノづくり」
日時：９月16日（土）　13:30～15:00
定員：30名　※要申込
費用：無料
会場：花巻市博物館 講座・体験学習室
※８月16日（水）より受付を開始します。

◆学芸員講座②
「斎藤宗次郎の日記
―明治31年の記事より―」
日時：11月11日（土）　13:30～15:00
定員：20名　※要申込
費用：無料
会場：花巻市博物館 講座・体験学習
※10月11日（水）より受付を開始します。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割８番地１
電　　話：0198-32-1030　FAX：0198-32-1050
開館時間：午前８時30分から午後４時間30分まで
休 館 日：12月28日から１月１日まで

入館料	小学生・中学生	150（100）円
	高校生・学生	250（200）円
	一般	350（300）円

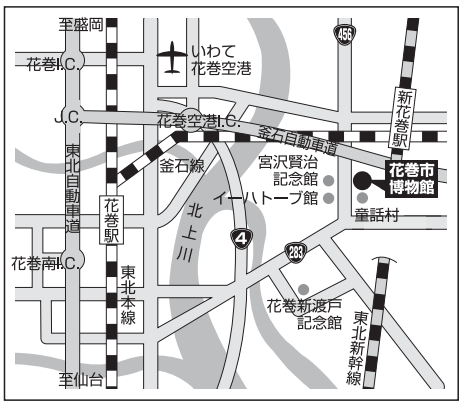
※（　）内は20名以上の団体割引料金です。
※割安な近隣4館共通券もあります。
※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

交通案内

◆バス
新花巻駅→賢治記念館口
岩手県交通　土沢線　イトーヨーカドー行…約５分
花巻駅→賢治記念館口
岩手県交通　土沢線　土沢駅行…約20分

◆車
花巻空港ＩＣより…約10分

◆徒歩
新花巻駅より…約25分



URL:https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html

HANAHAKU

花博コレクション

COLLECTION

ポスター「木から衣服ができるのです」　53.0×75.0cm（館蔵）

この春から放送されている朝の連続テレビ小説「らんまん」の影響で、書店にも植物学や牧野富太郎関連の書籍がたくさん並ぶようになりました。

本資料は当館が行っている出前授業「戦争と花巻」で使用している資料の一つです。「木から衣服が出来るのです」というタイトルの通り、繊維が採れる種類の木を紹介しています。くわ（桑）は山野に沢山育ち、特に養蚕（ようさん）農家には欠かせない植物でした。

苧麻（ちょま）（青麻（あおそ）、からむし）、あかそ（赤麻）は宮城県の山王囲遺跡（縄文時代晩期）などをはじめとする遺跡の編布（あんぎん）の出土事例などから、植物繊維の古代からの利用が周知されています。また、山菜として食すこともできる植物なので戦時中のみならず、飢饉などの自然災害時にも人々の生活を支えてきたことでしょう。

戦時中にさまざまな物が不足する中、学生服や仕事着をこれらの繊維が採れる植物を採集し、補おうとしました。

この資料からは身近な植物の意外な用途や、戦時中の人々の苦労を垣間見ることができます。

チラシ
「村中でからむし、あかそを取りませう」

（学芸調査員　佐藤 絵美）